

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 17 日現在

機関番号： 32623
 研究種目： 基盤研究 (B)
 研究期間： 2008～2011
 課題番号： 20320063
 研究課題名 (和文) 日本人英語学習者の話し言葉・書き言葉コーパスの整備とそれに基づく
 語用論的対照分析
 研究課題名 (英文) Development of Japanese Learners' Written and Spoken English Corpora
 and Comparative Studies on Their Pragmatic Aspects
 研究代表者
 池上 嘉彦 (IKEGAMI YOSHIHIKO)
 昭和女子大学・文学研究科・教授
 研究者番号： 90012327

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：日本人英語学習者・語用論・書き言葉・話し言葉・学習者コーパス・ICLE・LINDSEI

1. 研究計画の概要

この研究は、本科研費研究期間の開始以前に既に収集が終了していた日本人英語学習者の話し言葉及び書き言葉のコーパスを更に精査し、その語彙、構造、談話の特徴を分析し、特に語用論的運用力の発達について、他の文化圏の英語学習者の場合と比較対照を進めるものである。書き言葉については、ICLE (International Corpus of Learner English) の標準化されたフォーマットに従って学習者から集めた英語の作文を、トピックや長さなどの規準に従って整理する。また、話し言葉についても LINDSEI (Louvain International Database of Spoken English Interlanguage) の標準化されたフォーマットに従って、英語のインタビューを録音した資料の整理を更に進める。これらのデータを基に、エラータグ付き日本人コーパスを作成する。また、ICLE、LINDSEI 参加国の様々な母語を背景としたコーパスと比較し、日本人英語学習者の英語運用能力の特徴を検討する。そして、英語母語話者のデータである LOCNESS (Louvain Corpus of Native English Speakers) と日本人学習者の語用論的運用力に関する対照研究を継続する。加えて、ICLE のエラータグ付き日本人サブコーパスを利用して、大学生が Web 上で利用できる学習ツールの作成にも取り組む計画である。

2. 研究の進捗状況

2002年に初版された後、2009年に改訂版が出版された書き言葉コーパスのICLE と、2010年に初版が出版された話し言葉コーパスのLINDSEI の中に、日本人英語学習者のサブコ

ーパスが収められたことで、ここまで継続的に続けてきた書き言葉と話し言葉コーパス作成に向けてのデータ収集並びにそれらを整理する作業が終了することとなった。

現在はそれらのデータを活用し、日本人英語学習者が使用する英語に見られる語彙、構造、談話等の特徴を分析し、中でも特に語用論的運用力の発達について、他の文化圏の英語学習者のものと比較・対照する研究を更に進め、日本人英語学習者の英語運用能力の特徴を検討し、言語と認知の関連性を探る段階に入ってきている。そして、研究の成果を、国内外での学会や研究書籍にて発表する計画にしている。

また、本研究グループのこれまでの活動成果や活動内容を、同じ分野に興味を持つ研究者や英語教育関係者と共有することを目的として、Web サイトを開設し、Web での情報発信を進めると共に、シンポジウム等のイベントを開催し、情報交換や交流の機会も作っている。

更に、英語母語話者のデータである LOCNESS と日本人学習者の語用論的運用力の比較研究を継続して行い、それらの結果に基づき、大学生が Web 上で利用できる学習ツールを作成することを検討している。その為、日本人英語学習者の誤用の傾向を分析する目的で、Native Speaker によるエラーチェックを行い、それを基にしたエラータグを付ける作業を現在進めている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

(理由)

ベルギーの Louvain 大学の Sylviane Granger 教授のもと世界 15 ヶ国以上の研究グループが参加している世界的規模の学習者コーパス研究グループの日本代表として、データの収集・整理作業に参加し、その成果として 2009 年には ICLE の改訂版が、そして 2010 年には LINDSEI の初版を出版することができた。また、その ICLE と LINDSEI を用いた研究成果の発表を、日本国内外の学会や出版物に行っている。更に、2010 年 10 月 30 日(土)には、Louvain 大学から Guest Speaker として Dr. Gaëtanelle Gilquin を招聘し、『The ICLE / LINDSEI シンポジウム・ワークショップ』を開催した。当日は、午前中にワークショップを、午後に講演と研究発表を行い、国内の研究者の方々と最新の情報を共有することもできた。

4. 今後の研究の推進方策

ここまでの 3 年間は、コーパスデータの整理並びに語用論的運用能力の発達に関する比較対照研究を進めてきた。今後は、そのデータと研究成果を利用し、日本人英語学習者の為の Web 上の学習プログラム作成について検討して行きたい。特に学習者の誤用に注目し、エラータグを付けた ICLE と LINDSEI コーパスを利用し、Web 上での学習プログラム作成に向けて、内容の検討を進めたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 27 件)

- (1) 投野由紀夫、学習者コーパスを使って生徒のアウトプットを分析したい、『英語教育』、59 巻 2 号、pp. 26-29、2010 年、査読無
- (2) 金子朝子、小林多佳子、高野恵美子、高味み鈴、石塚美佳、夏莉佐宜、赤堀志子、The Development of Cohesive Ties in English by Japanese University Students、『学苑』、833 号、pp. 12-24、2009 年、査読有
- (3) 池上嘉彦、認知言語における〈事態把握〉、『言語』、10 月号、pp. 62-70、2009 年、査読無
- (4) 池上嘉彦、‘Subjective Construal’ as a “Fashion of Speaking” in Japanese、*Current Trends in Contrastive Linguistics: Functional and Cognitive Perspectives, Studies in Functional and Structural Linguistics* 60 (Amsterdam: John Benjamins)、pp. 227-250、2008 年、査読有
- (5) 小林多佳子、Usage of Countable and Uncountable Nouns by Japanese Learners of English -Two Studies Using

the ICLE Error-tagged Japanese Sub-corpus-、『学苑』、816 号、pp. 73-82、2008 年、査読有

[学会発表] (計 35 件)

- (1) 夏莉佐宜、The Use of “I” of Japanese EFL Learners、JALT 2010、2010 年 11 月 20 日、名古屋・愛知県産業労働センター
- (2) 金子朝子、Six Studies on ICLE / LINDSEI Japanese Sub-Corpora、ICLE / LINDSEI Japanese Sub-Corpora Symposium、2010 年 10 月 30 日、東京・昭和女子大学
- (3) 投野由紀夫、Automatic extraction of L2 criterial lexico-grammatical features across pseudo-longitudinal learner、The European Second Language Association (EUROSLA) — Thematic colloquium: Researching vocabulary use: insights from corpus analysis、2010 年 9 月 4 日、Reggio, Emilia・Italy
- (4) 池上嘉彦、認知言語学の現在、北京大学外国語学院言語学セミナー第 457 回、2010 年 3 月 12 日、中国・北京大学
- (5) 金子朝子、Teaching for Understanding、JACET 第 48 回全国大会、2009 年 9 月 6 日、北海道・北海学園大学

[図書] (計 14 件)

- (1) G. Gilquin, S. De Cook, S. Granger, 他 13 名、*Louvain International Database of English Interlanguage*、UCL Presses, Universitaires de Louvain、2010 年、111 ページ
- (2) 金子朝子、*Use of English by Japanese Learners of English: Study of Errors*、三秀社、2010 年、183 ページ
- (3) S. Granger, et al. (eds.), Blagoeva, R., T. Kaneko et al., *International Corpus of Learner English Version 2*、UCL Presses, Universitaires de Louvain、2009 年、228 ページ
- (4) 金子朝子、「日本人学生による「鉛直軸をあらわす英語前置詞」と「意味のネットワーク」『コーパスと英語教育の接点』(中村純作・堀田秀吾 編著)、松柏社、2009 年、105-119 ページ
- (5) 投野由紀夫、「コーパス研究」『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』(小寺茂明・吉田晴世 編著)、松柏社、2008 年、129-143 ページ

[その他]

ホームページ

<http://learner-corpus.cms.drecom.jp/>